2020年夏 3大会優勝決まる

夏真っ盛り。ボーイズリーグは新型コロナウイルスの感染防止に努めながら各地で大会が開かれている。2月以来延期となっていた「ダイワハウス杯北九州大会」中学生の部決勝が行われ、八幡南ボーイズ（北九州）が直方ボーイズ（福岡北）に11―7と打ち勝ち優勝した。中学1、2年生による「福岡県北支部ジュニア大会」は西田川ボーイズ、「ホークス杯西九州支部予選」は佐賀玄海ボーイズが制した。

（弓削　大輔）

報知 ボーイズリーグ スペシャル
ボーイズリーグ欄掲載写真のご購入、本紙購読のお申し込みはWebサイト https://www.setbuhochi.com/boys/ または092・715・6289
▶QRコード

2年ぶりにジュニア大会を制した西田川ナイン

西田川 一発&投げ 八幡南 打ち勝つ 佐賀玄海 圧倒して

北九州大会初優勝を飾った八幡南ナイン

父のゲキに吉田翔逆転満塁弾

決勝の5回無死満塁、右越え満塁弾を放った吉田翔（右から2人目）ら八幡南の選手たち

宮原初スタメン 3安打3得点！

全国大会中止にショックを受けながらも気持ちをつなぎ、目の前の一球に向き合った。八幡南は5回に打者9人の攻撃で6点を入れ逆転。主力選手をけがで欠きながらも10安打11得点を挙げて栄冠を手にした。

気合の一振りがグランドスラムとなった。3―6の5回。森木悠登の左中間適時二塁打と押し出しの四球で1点差に迫り、なおも無死満塁。初球を見逃した6番・吉田翔に対し、ベンチにいるマネジャーの父・裕志さんから厳しいゲキが飛んだ。「絶対に打とうと思った」。2球目も同じ高めの絶好球。迷わず振り抜くと打球は右翼フェンスを越えた。逆転満塁弾。クールな背番号1は淡々とダイヤモンドを一周した。

これまで控えだった選手も活躍。遊撃を守った宮原楓大は準決勝が初スタメン。二塁打と2四球で全打席出塁。さらに決勝は4打数3安打の3得点で貢献した。「素振りをたくさんして打撃には自信があった。結果が出せてホッとした」と振り返った。

決勝で3安打を放った宮原楓大

ダイワハウス杯第2回北九州大会 中学生の部

（2日・準決勝～決勝＝田川市猪位金野球場）

▼決勝

八幡南	1	2	0	0	6	2	0		11
直方	1	2	0	3	1	0	0		7

【八】安田、塚本、小林―西村【直】平山、藤村剛、隈井、安田―秋元▽本塁打―吉田翔（八）▽二塁打―阿部、森木2（八）鈴木、秋元（直）

投手陣は前日の練習試合で登板した翔、壮汰のダブル吉田が決勝で投げられなかったが、決勝では2年生の安田創磨、塚本空輝が力投。3年生がしっかり援護した。

2日前に選手権大会の中止が発表された。春に続いて目標としていた大会がなくなったが、どうにか気持ちをつないだ。徳野晴美監督は「腐らずにやってくれた。全国大会が中止となった分、こうして試合ができ、勝たせてもらって感謝している」。どんな状況でも目の前の一球に集中することの大切さ。この経験はこれからの野球人生で必ず生きてくるはずだ。

▽準決勝

武雄	2	0	1	0	2	0	0		5
佐賀玄海	0	0	0	0	2	4	X		6

【武】原田、松尾、中原―前田【玄】山崎、青木―松尾▽三塁打―中原（武）▽二塁打―野田、山下夢（武）八島3（玄）

▼2回戦

八幡南（北九州）	0	0	0	0	0	0	1		1
宗像（福岡北）	0	0	2	1	0	0	X		3

【宗】隠塚、白石―石田【八】吉田翔、吉田壮―藤井、西村▽二塁打―宮原（八）小倉（北九州）

直方（福岡北）	2	0	0	3	0	1	0		6
小倉（北九州）	0	0	3	0	1	0	1		5

（6回時間切れ）

【小】伊藤、梅田―大山、池本【直】隈井、平山―秋元▽二塁打―梅田、井村（小）江口、鈴木（直）

▼個人賞

最優秀選手賞…吉田翔（八幡南）

優秀選手賞…秋元悠汰（直方）

直方準V

秋元奮闘2点打

直方は準優勝に輝いた。決勝は5回に大量点を奪われて逆転されたものの、1―3の2回に津田涼太主将のスクイズなど内角うまく体が反応し秋元悠汰の左一けで同点。4回は「にうまく言う」と2点二塁打などで低めた」翌線時3点リードと打ち負けなかった。

気持ちを立て直した。選手権大会予選は1点差で未勝利。中心打者の秋元は「自分がもうちょっとていたら勝ってたと打ていた」と責任を痛感したち揮はとも上がり、本来の力を発揮しした。村津正祐監督は「いい経験が出来たてい思う。高校に向けてほしいう。一皮むけてとエールを送った。

決勝の4回、左翼線に2点二塁打を放つ秋元悠汰